

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400332		
法人名	株式会社 秀		
事業所名	グループホーム とみおか (2F いこい)		
所在地	北海道函館市富岡町1丁目51番20号		
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果市町村受理日	平成29年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。  
 基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0191400332-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400332-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・設立当初より続けている「一日日記」はスタッフが毎日の様子を一月月綴った文面をご家族もとても楽しみにされ読まれております。  
 ・外出行事として、春の桜の時期には五稜郭タワーでご家族様と一緒に昼食を摂られ、公園の桜の鑑賞を楽しまれています。秋の紅葉の時期には大沼公園へのドライブで秋の味覚を楽しまれています。季節を感じられる様外出する機会を多くして行きたいと、ご家族様、ボランティアの方々の協力を得ながら行っております。  
 ・月2度の訪問診療や毎週1度の訪問看護による医療連携があり、訪問看護ステーションについては24時間体制で対応しています。また、病状により臨時住診もあり、早期発見、早期治療でご家族にも安心して戴いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道5号線近くの閑静な住宅街にある開設8年目を迎えた鉄骨造り3階建ての2・3階を利用した2ユニット(定員:18名)のグループホームです。  
 家族と一緒に五稜郭タワー見物に出かけ、レストランで一緒に食事を楽しんだり、山川牧場や大沼公園、お花見や桜見物など普段は行けないような場所でも、家族等と協力しながら出かけられるように支援している。  
 また、中学校の吹奏楽部の生徒達の慰問や地域ボランティア、実習生の受け入れ等で事業所の持つ機能を地域に還元していると共にクリスマス会では、近隣の子どもたちや地域の人々が参加して交流の機会を作ったり、ボランティアの協力を得て地域との交流の場を設けている。  
 利用者の特格的な一日の暮らしを「一日一日記」で毎月、家族に情報提供したり、来訪時には、家族と話し合う機会を設けるなど家族との連携・協力体制構築に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらい 3 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらい 3 職員の1/3くらい 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらい 3 家族等の1/3くらい 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げ、玄関や廊下、各ユニットリビングの壁に掲示し、毎日の申し送りや毎月のユニット会議等の際に話し合い日々の業務を通じて理念を共有しその実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り、見易い場所に掲示して、日常業務や全体会議等で話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕の子供達の訪問、ボランティアの訪問、夏祭りの開催、近隣中学校吹奏楽部の訪問と地域との交流関係を深めています。	中学校の吹奏楽部の生徒達の慰問や地域ボランティア、実習生の受け入れ等で事業所の持つ機能を地域に還元していると共にクリスマス会では、近隣の子どもたちや地域の人々が参加して地域との交流の場を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学はいつでも自由に行っており、近隣小中学校との交流により子供達の訪問が増え家族へも理解を深めてもらう話をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度実施しており、活動の状況報告等についてご家族や参加者と具体的な意見交換をし、よりよいサービス向上へと繋げています。	運営推進会議を定期的に開催して、防災対策や事業所の運営状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会あるごとに、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者及び包括支援センターとは、研修会参加や日常業務を通じて情報の交換に努め、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送り、毎月のユニット会議等において、身体拘束や高齢者虐待防止について機会ある毎に話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を日常業務や内部の研修会等を通じて話し合い、正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	市役所開催の会議への参加、毎日の申し送り、会議の場において資料等で日頃の自分達の言動やケア方法についての問題点などを話し合い、日々不適切なケア防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームで成年後見人制度を使用されている方もおり、運営推進会議を通してご家族様にご説明させて頂き、必要なご家族には、アドバイスや支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書、重要事項説明書の内容をご家族に説明し理解・納得を得て捺印して戴いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時にご意見や苦情、ご要望等を直接言って頂けるよう働きかけ、また玄関入り口に意見箱を設けています。運営推進会議では、包括支援センター等の意見を聞き入れ改善に向け取り組んでいます。	玄関入り口に意見や要望等を言い表せるように「意見箱」を設置し、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。また、家族の来訪が多く、来訪時に要望や意向を話し合う機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議、日常業務を通じて意見や要望、提案を聴く機会を設け運営に反映できるようにしている。	ユニット会議や全体会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見や提案を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与、新年度に昇給等の見直し、労働時間の要望等、また年度内においても、状況に合わせ手当等の見直しがあり、資格取得者については、給料段階を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内の提示により、職員周知し参加できる機会を確保し、欠席職員には研修内容をいつでも閲覧出来る様にしている。また専門業者に依頼し介護トレーニングも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者と交流する機会は少ないが、勉強会等には職員が積極的に参加できる様シフトの調整や、また参加時は積極的に同業者との交流や情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様・ご家族様と面談し心配事、不安に思っている事等をアセスメントし、入居時には本人様が安心して生活が出来るよう関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様との面談時のアセスメントをしっかりと行い要望を聞き入れながら安心して暮らして戴ける様、敏速な対応で信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様との面談時の要望、意見等の情報分析、担当ケアマネ、医療機関、関係者等からの情報収集をし、まず必要としている支援を見極め安心して生活出来る様対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器拭き、チラシ折り、編み物等を職員、他入居者様と一緒にしる事で、コミュニケーションを図りより良い関係を作り築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を常に密にし共に同じ方向性を持ち、ご家族関係を大切にしながら、支援していく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にされてきた馴染みの方々やペット等も自由に訪問でき、外出時には、馴染みの場所に立ち寄る様支援している。	紅葉や桜見物、五稜郭タワーや山川牧場見物などに出かけたり、地域の行事参加で地元の人々との交流等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、アクティビティや行事等、他ユニットとの交流など関わり合える様支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご本人様・ご家族様との関係を大切にし、いつでも相談等や支援を行える体制をとっている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、ご家族様の思いや暮らし方の意向の把握に努めると共に、日々の関わりの中からご本人の思いを把握し、申し送り等で全職員が思いを共有し、常にその人らしく生活が送れるように支援している。	生活歴や日々の係わりの中で一人ひとりの希望や意向を把握して、職員間で情報を共有して本人本位に支援できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様、ご家族様からの聞き取りにより、今までの暮らし、環境、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、関わりを通じて一日の過ごし方、心身状態等を把握し職員間で情報を共有し、一人ひとりの有する力等に合わせ、その日その人が望む生活が送れるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向や要望も含め、毎日の申し送りや、ユニット会議等を通して、ご本人様がより良い生活を送れるように介護計画を作成し支援している。	本人、家族の意向や要望、ユニット会議やカンファレンス等を通じて職員の意見やアイデアを反映して、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成記録し、毎日の申し送り、連絡ノートで職員間で情報の共有をし、ユニット会議時の他機会ある毎に、個別のカンファレンスを行い介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々必要性に対応出来る様、全職員間で情報を共有し、柔軟な支援やサービスに対応出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	七夕の子供達の訪問、近隣中学校吹奏楽部の訪問、尺八と和楽器の演奏、歌、等のボランティアの方々にホームに来て頂き楽しんで暮らせる様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な医師の往診や訪問看護の利用で適切な医療を受けられる様支援している。他の医療機関受診の希望がある場合は適切に医療が受けられる様支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や通院への支援、日常の健康管理等で適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴や日々の関わりの中で気付いた小さな変化も職員間で共有し、2週に1度の往診、週1度の訪問介護で相談し指示を仰いでいる。また訴え、食事量、排泄等の変化に注意し、小さな変化も見逃さない様徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院関係者に対して情報提供をし、治療に専念出来る様に支援している。また、ご家族と密に連絡を取り、退院に向けご本人様の体調や、症状に合わせた支援が出来る様、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	希望意向に添えるよう、早い段階からご本人様、ご家族様、主治医、病院関係者、事業所と話し合いを行い、事業所ですることを説明、理解して戴き方向性を決め支援に取り込んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら職員間で指針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に合わせた対応マニュアルを全職員が周知していると共に、医療連携看護師、主治医に連絡を取り、冷静に指示が聞き分けられる様身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士立ち合いの訓練時には、日頃の疑問や緊急時の対応など、ホームの構造や入居者様の状況に対する疑問点についても解消し全職員が不安なく対応出来る様強化を図っている。自然災害時の対応についても運営推進会議等で話し合っている。	自然災害時の対応について、地域の人達が参加する運営推進会議で話し合っている。また、消防署の協力を得て昼夜間を想定した避難訓練を定期的実施している。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、言葉使いや動作に配慮し、親しみを込めつつも、誤解や疎外感を感じさせない様十分に気を付ける旨会議の席上や機会ある毎に確認している。	日常業務やユニット会議等で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや対応がないように話し合い、実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定出来る様に、声掛けの際には選択的な質問をし、意向を汲み上げるように心がけ、入居者様間での軋轢が生じないように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員の都合ではなく、お一人お一人のペースを大切にその人らしく過ごすことが出来る様、その日、その時のご本人様の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や洋服の選択など、ご本人様の意向に沿い、入居者様間でも話題に上がることもある。毎日の身だしなみとして、お化粧品をされている入居者様もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを入居者様と職員が共に行い、音や匂いで食事が楽しみな状況を作っている。献立は入居者様の要望や季節ごとの旬な食材を採り入れている。入居者様は職員と共に食卓を囲み団らんのひと時を過ごしている。	季節ごとの旬な食材を採り入れるよう献立の工夫や時にはレストランでの外食やホテルからの仕出しで食事が楽しみなものになるよう支援している。また、嗜好や体調に合わせた食事を提供し、職員と一緒に準備や後片付けなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の食事量に合わせ、間食も含め偏りの出ないように工夫している。水分量に関しても、状態に合わせ糖分などに配慮し、好みに応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	デンタルリンス、歯間ブラシ等を使用し、お一人お一人に合わせたケアを行っている。歯ブラシが使用できない方やうがい難しい方には、歯磨きティッシュを使用し口腔ケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを排泄表で把握し、排泄サインを見逃さずに誘導をして、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、声かけや誘導等でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や廊下の往復などを声掛けで行い、楽しみながら身体を動かしていただく様、工夫している。水分量が少ない方には、寒天ゼリー等で摂って戴けるように工夫し、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴は週2回を予定しているが、身体汚染時など状況に合わせて随時支援している。浴室は常に清潔を保ち、職員都合ではなく、ゆったり入浴して戴けるよう支援している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回の柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状況、体調に応じ、休息の時間をとって戴き、居室内の温度、湿度に注意し、発汗の多い方はタオルを使用しこまめに交換するなどして、個々に合わせた対応を行い、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について理解し、服薬の調整指示が医師からあった場合には、その後の状況観察をしっかりと伝え適切な投薬がされるよう支援している。嚥下の状態により、トロミをつけるなどの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洋裁や編み物をされていた方は職員と一緒にに行われ、思い出話や過去の作品について話されることもある。また、ほつれを直して戴いた時など、仕事に感謝される事が張り合いに繋がっている方もおられる。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて花見、紅葉ドライブを実施。入居者様の希望や身体状況に応じて外出支援をしている。ご家族との外出や日光浴など出来るだけ戸外へ出かけられるよう工夫している。	家族と一緒に五稜郭タワー見物に出かけ、レストランと一緒に食事を楽しんだり、山川牧場や大沼公園、お花見や桜見物など普段は行けないような場所でも、家族等と協力しながら出かけられるように支援している。	戸外に出かける機会を多くして、地域との交流をより深めていくよう検討しているので、その実践に期待します。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る入居者様は殆どおらず、ご家族様とホームで管理し買い物をされているが、希望される入居者様には職員同行で一緒に買い物の支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人から電話があった時は、子機で取り次ぎ自室でゆっくりお話が出来るよう配慮している。遠方のご家族様からの手紙やハガキを楽しみにされている方もおられる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節感のある作品や飾りを掲示し、入居者様は行事やご家族様との思い出の写真や作品に囲まれ、廊下で立ち止まって見入っている姿もよくみられている。リビングでは換気と採光、音量に配慮し快適に過ごせる様工夫している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間からは、函館山や五稜郭タワーが眺められ景色も良く、廊下やリビングには行事参加の写真の掲示や季節ごとの飾り付けなど季節感や生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々がソファでお話をされていたり、椅子に座りお独りの時間を過ごされている方もいる。お一人お一人が思い思いに過ごせる居場所を作る工夫をしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって使い慣れた家具や身の周りの物を持参して戴き、ご家族様の写真や思い出の品などを自由に持ち込み安心して過ごせる居室作りを工夫している。動物やお花が好きな方には趣味に合わせたカレンダーやポスターを用意する事もある。	居室には、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からなくなった時には、標識を確認して戴き誘導する。混乱の原因を作らないよう、いつも同じトイレ、洗面所に誘導し場所を把握して戴ける様支援している。			



### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400332		
法人名	株式会社 秀		
事業所名	グループホーム とみおか (3F いずみ)		
所在地	北海道函館市富岡町1丁目51番20号		
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果市町村受理日	平成29年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400332-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400332-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年2月19日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・設立当初より続けている「一日日記」はスタッフが毎日の様子を一月月綴った文面をご家族もとても楽しみにされ読まれております。  
 ・外出行事として、春の桜の時期には五稜郭タワーでご家族様と一緒に昼食を摂られ、公園の桜の鑑賞を楽しまれています。秋の紅葉の時期には大沼公園へのドライブで秋の味覚を楽しまれています。季節を感じられる様外出する機会を多くして行きたいと、ご家族様、ボランティアの方々の協力を得ながら行っております。  
 ・月2度の訪問診療や毎週1度の訪問看護による医療連携があり、訪問看護ステーションについては24時間体制で対応しています。また、病状により臨時往診もあり、早期発見、早期治療でご家族にも安心して戴いております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げ、玄関や廊下、各ユニットリビングの壁に掲示し、毎日の申し送りや毎月のユニット会議等の際に話し合い日々の業務を通じて理念を共有しその実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕の子供達の訪問、ボランティアの訪問、夏祭りの開催、近隣中学校吹奏学部の訪問と地域との交流関係を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学はいつでも自由に行っており、近隣小中学校との交流により子供達の訪問が増え家族へも理解を深めてもらう話をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度実施しており、活動の状況報告等についてご家族や参加者と具体的な意見交換をし、よりよいサービス向上へと繋げています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会あるごとに、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送り、毎月のユニット会議等において、身体拘束や高齢者虐待防止について機会ある毎に話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市役所開催の会議への参加、毎日の申し送り、会議の場において資料等で日頃の自分達の言動やケア方法についての問題点などを話し合い、日々不適切なケア防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームで成年後見人制度を使用されている方もおり、運営推進会議を通してご家族様にご説明させて頂き、必要なご家族には、アドバイスや支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書、重要事項説明書の内容をご家族に説明し理解・納得を得て捺印して戴いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時にご意見や苦情、ご要望等を直接言って頂けるよう働きかけ、また玄関入り口に意見箱を設けています。運営推進会議では、包括支援センター等の意見を聞き入れ改善に向け取り組んでいます。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議、日常業務を通じて意見や要望、提案を聴く機会を設け運営に反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与、新年度に昇給等の見直し、労働時間の要望等、また年度内においても、状況に合わせて手当等の見直しがあり、資格取得者については、給料段階を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内の提示により、職員周知し参加できる機会を確保し、欠席職員には研修内容をいつでも閲覧出来る様にしている。また専門業者に依頼し介護トレーニングも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者と交流する機会は少ないが、勉強会等には職員が積極的に参加できる様シフトの調整や、また参加時は積極的に同業者との交流や情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様・ご家族様と面談し心配事、不安に思っている事等をアセスメントし、入居時には本人様が安心して生活が出来るよう関係作りを努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様との面談時のアセスメントをしっかりと行い要望を聞き入れながら安心して暮らして戴ける様、敏速な対応で信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様との面談時の要望、意見等の情報分析、担当ケアマネ、医療機関、関係者等からの情報収集をし、まず必要としている支援を見極め安心して生活出来る様対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器拭き、チラシ折り、編み物等を職員、他入居者様と一緒にしる事で、コミュニケーションを図りより良い関係を作り築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を常に密にし共に同じ方向性を持ち、ご家族関係を大切にしながら、支援していく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にされてきた馴染みの方々やペット等も自由に訪問でき、外出時には、馴染みの場所に立ち寄る様支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、アクティビティや行事等、他ユニットとの交流など関わり合える様支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご本人様・ご家族様との関係を大切に、いつでも相談等や支援を行える体制をとっている。		
<b>III そのらしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、ご家族様の思いや暮らし方の意向の把握に努めると共に、日々の関わりの中からご本人の思いを把握し、申し送り等で全職員が思いを共有し、常にその人らしく生活が送れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様、ご家族様からの聞き取りにより、今までの暮らし、環境、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、関わりを通じて一日の過ごし方、心身状態等を把握し職員間で情報を共有し、一人ひとりの有する力等に合わせ、その日その人が望む生活が送れるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向や要望も含め、毎日の申し送りや、ユニット会議等を通して、ご本人様がより良い生活を送れるように介護計画を作成し支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成記録し、毎日の申し送り、連絡ノートで職員間で情報の共有をし、ユニット会議時の他機会ある毎に、個別のカンファレンスを行い介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々必要性に対応出来る様、全職員間で情報を共有し、柔軟な支援やサービスに対応出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	七夕の子供達の訪問、近隣中学校吹奏楽部の訪問、尺八と和楽器の演奏、歌、等のボランティアの方々にホームに来て頂き楽しんで暮らせる様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な医師の往診や訪問看護の利用で適切な医療を受けられる様支援している。他の医療機関受診の希望がある場合は適切に医療が受けられる様支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴や日々の関わりの中で気付いた小さな変化も職員間で共有し、2週に1度の往診、週1度の訪問介護で相談し指示を仰いでいる。また訴え、食事量、排泄等の変化に注意し、小さな変化も見逃さない様徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院関係者に対して情報提供をし、治療に専念出来る様に支援している。また、ご家族と密に連絡を取り、退院に向けご本人様の体調や、症状に合わせた支援が出来る様、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	希望意向に添えるよう、早い段階からご本人様、ご家族様、主治医、病院関係者、事業所と話し合いを行い、事業所で出来ることを説明、理解して戴き方向性を決め支援に取り込んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に合わせた対応マニュアルを全職員が周知していると共に、医療連携看護師、主治医に連絡を取り、冷静に指示が聞き分けられる様身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士立ち会いの訓練時には、日頃の疑問や緊急時の対応など、ホームの構造や入居者様の状況に対する疑問点についても解消し全職員が不安なく対応出来る様強化を図っている。自然災害時の対応についても運営推進会議等で話し合っている。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、言葉使いや動作に配慮し、親しみを込めつつも、誤解や疎外感を感じさせない様十分に気を付ける旨会議の席上や機会ある毎に確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定出来る様に、声掛けの際には選択的な質問をし、意向を汲み上げるように心がけ、入居者様間での軋轢が生じないよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員の都合ではなく、お一人お一人のペースを大切にその人らしく過ごすことが出来る様、その日、その時のご本人様の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や洋服の選択など、ご本人様の意向に沿い、入居者様間でも話題に上がることもある。毎日の身だしなみとして、お化粧をされている入居者様もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを入居者様と職員が共に行い、音や匂いで食事が楽しみな状況を作っている。献立は入居者様の要望や季節ごとの旬な食材を採り入れている。入居者様は職員と共に食卓を囲み団らんのひと時を過ごしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の食事量に合わせ、間食も含め偏りの出ないように工夫している。水分量に関しても、状態に合わせ糖分などに配慮し、好みに応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	デンタルリンス、歯間ブラシ等を使用し、お一人お一人に合わせたケアを行っている。歯ブラシが使用できない方やうがいが難しい方には、歯磨きティッシュを使用し口腔ケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを排泄表で把握し、排泄サインを見逃さずに誘導をして、可能な限りトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や廊下の往復などを声掛けで行い、楽しみながら身体を動かしていただく様、工夫している。水分量が少ない方には、寒天ゼリー等で摂って戴けるように工夫し、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴は週2回を予定しているが、身体汚染時など状況に合わせて随時支援している。浴室は常に清潔を保ち、職員都合ではなく、ゆったり入浴して戴けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状況、体調に応じ、休息の時間をとって戴き、居室内の温度、湿度に注意し、発汗の多い方はタオルを使用しこまめに交換するなどして、個々に合わせた対応を行い、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について理解し、服薬の調整指示が医師からあった場合には、その後の状況観察をしっかり伝え適切な投薬がされるよう支援している。嚥下の状態により、トロミをつけるなどの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洋裁や編み物をされていた方は職員と一緒に 行われ、思い出話や過去の作品について話 されることもある。また、ほつれを直して戴いた 時など、仕事に感謝される事が張り合いに繋 がっている方もおられる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけら れるよう支援に努めている。また、普段は行けないよう な場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて花見、紅葉ドライブを実施。入 居者様の希望や身体状況に応じて外出支援を している。ご家族との外出や日光浴など出来る だけ戸外へ出かけられるよう工夫している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり 使えるように支援している	金銭管理が出来る入居者様は殆どおらず、ご 家族様とホームで管理し買い物されている が、希望される入居者様には職員同行で一 緒に買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり 取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人から電話があった時は、子 機で取り次ぎ自室でゆっくりお話し出来るよう 配慮している。遠方のご家族様からの手紙や ハガキを楽しみにされている方もおられる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激 (音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活 感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工 夫をしている	壁には季節感のある作品や飾りを掲示し、入 居者様は行事やご家族様との思い出の写真や 作品に囲まれ、廊下で立ち止まって見入っ ている姿もよくみられている。リビングでは換気と採 光、音量に配慮し快適に過ごせる様工夫して いる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同 士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々がソファでお話をされてい たり、椅子に座りお独りの時間を過ごされて いる方もいる。お一人お一人が思い思いに過ご せる居場所を作る工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しな がら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が 居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって使い慣れた家具や身の周りの 物を持参して戴き、写真や思い出の品などを自 由に持ち込み安心して過ごせる様工夫して いる。動物やお花が好きな方には趣味に合わせ たカレンダーやポスターを用意する事もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を 活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよ うに工夫している	トイレの場所が分からなくなった時には、標識 を確認して戴き誘導する。混乱の原因を作らな いよう、いつも同じトイレ、洗面所に誘導し場所 を把握して戴ける様支援している。		



## 目標達成計画

グループホーム とみおか

作成日：平成 29年 2月 20日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	49	行事での地域との交流はあるが、日常的には少なく、地元関係者との交流も含め地域とのつながりを深める。	地域の方と顔なじみの関係を築く。	気候の良い日は散歩、日光浴の機会を多くし近隣の方との交流を深めることが出来る様支援する。運営推進会議を通して地元関係者とのつながりを深めていく。	1年
2	13	職員の高齢化が進んでいる点が問題にあり、人材育成を行うことが必要。	常勤職員を育成し事業所全体の介護の質を高める。	日々の業務の中での育成とミーティング、内外の研修に積極的に参加し、入居者様に寄り添い笑顔で穏やかな一日を過ごして戴ける様、より良いケアを実践していく。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。